

黄金の島の歴史を未来へ

佐渡市世界遺産推進基金を創設

佐渡市では、「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」が世界遺産暫定一覧表に記載されたことを受けて、市や市民・企業等が一体となって世界遺産登録の早期実現に向けて取り組むため、「佐渡市世界遺産推進基金」を創設しました。

基金は市が1億円を拠出し、皆さまから寄せられた「佐渡ふるさと島づくり寄付金（ふるさと納税）」などを積み立てるものです。

基金は平成24年度からの運用を予定

定しており、

主な事業として、

文化的景観選定地区や

予定地区内の

町並み・石垣

等の修復、鉱

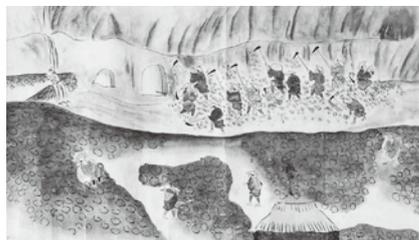
山絵巻や佐渡小判・印銀などの収集に

充てることにしています。

基金への寄付の方法や概要については、

改めてパンフレットでご案内します。

多くの皆さまからのご支援・ご協力をお願いします。



佐佐金山之図

相川の空き家を活用しませんか？

佐渡市では、世界文化遺産の構成資産の1つである相川の町並みを保護する目的で、平成23年度から世界遺産町並み保存支援事業を実施します。この制度は、建築後50年以上を経過した空き家の修復や活用に補助金を支出するものです。金銀山の歴史とともに歩み続けた相川の歴史的建造物を活用してみませんか？

対象となる経費	補助額
内部改修経費	経費の1/2以内 (上限100万円)
外観修復経費	経費の1/2以内 (上限100万円)
空き家購入経費	経費の1/2以内 (上限50万円)
景観保存のための活動経費	経費の1/2以内 (上限5万円)
空き家活用のための物品購入経費	経費の1/2以内 (上限20万円)
空き家賃貸料	経費の1/2以内 (上限12万円)

詳しくは、世界遺産推進課(☎63-5136)までお問い合わせください。

相川地区 文化的景観調査 中間報告会を開催しました

相川地区の文化的景観調査中間報告会を、3月6日、あいかわ開発総合センターで開催しました。

大場修さん(京都府立大学大学院教授)・清水重敦さん(奈良文化財研究所 景観研究室長)の報告の後、相川大工町から相川江戸沢町までを歩き、現地説明会を行いました。

鉱山と住民の生活のかかわりなど、普段とは違う視点から相川の歴史を考え、まちを歩きました。



世界遺産登録に向けて

相川地区の文化的景観調査

慶長6年(1601)の金銀山発見以後、400年にわたり鉱山の町として大きく発展した相川地区の町並みや景観を守るために、佐渡市では今年度から文化的景観調査を実施しています。

上町の町家調査では、江戸時代から戦前を通して平屋主体の町並みをもち、板葺から瓦葺への屋根替えがあったものの、ナンドを持たない1列型の平面構成および2階の居室形成が佐渡の他地域との相違点であることが確認されました。

また、明治20年の「建物台帳」および昭和4年の「家屋台帳」によつ

て、下京町は大工町と比べ土蔵の保有率が少なく、2階を持つ町家が多いこともわかりました。

さらに、上町と下町の境となる段丘崖にのみ植生するタブーエノキ群生やクロマツが確認できたことなど、鉱山にかかわってできた景観要素と人々の生活・生業が時代ごとに移り変わってきたことが明確になってきました。

今後は、この貴重な景観を保護するため、国の文化財として重要な文化的景観の選定に向けた準備を進めていく予定です。

文化的景観とは、地域における人々の生活または生業および風土により形成された景観地のことです。平成17年の文化財保護法の改正により、新たに制定された文化財の保護制度です。